

YAMAHA

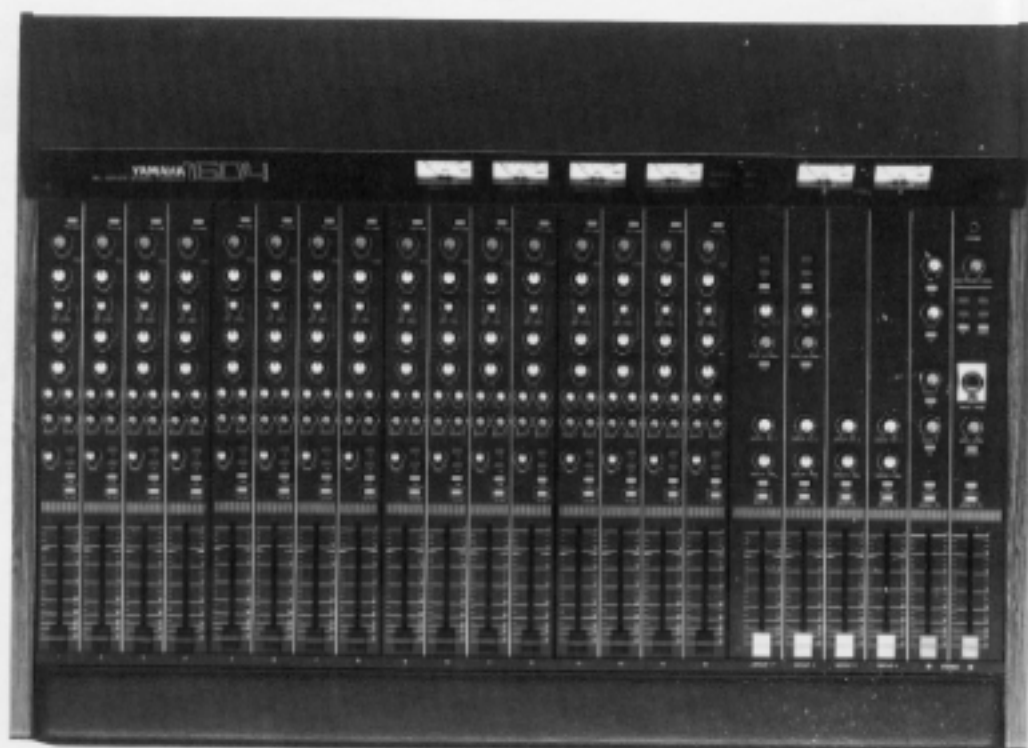
MC SERIES MIXING CONSOLE

1204

1604

2404

取扱説明書



このたびは、YAMAHA MCシリーズミキシングコンソールをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

YAMAHA ミキシングコンソール MCシリーズは、安定した性能ときめ細かな操作性、高信頼性を追求した新しいタイプのミキサーです。12チャンネルインプットの1204、16チャンネルの1604、24チャンネルの2404、全機種共アウトプットはグループアウト4チャンネル、ステレオアウト1組としました。

全主要入出力部にバランス型 XLB コネクタを採用。さらにエフェクトデバイスを想定して各チャンネルにインサートイン/アウトを設けました。

またグループ系からはエコー回路とホールドバック回路を完全に独立させ、トークバック回路やピークインジケータ内蔵の VU メーターも装備、軽量化も大きな特長です。

スタジオ録音から各種コンサートにおけるメインミキサーとして、幅広くお使いください。

目次

ご使用になる前に	1
仕様	2
コントロールパネル	
INPUT SECTION	3
ECHO RETURN & GROUP OUT SECTIONS	5
FB OUT, ECHO SEND & STEREO OUT SECTIONS	7
PHONES & TALK BACK SECTIONS	8
VU METER SECTION	9
リアパネル	9
接続例	11
寸法図	11
ブロックダイアグラム	12
入・出力仕様	13
レベルダイアグラム	14
サービスについて	15

ご使用になる前に

- 本機の電源電圧は国内仕様AC100V(±10%)、50/60Hzです。
- 電源投入時には、スピーカーなどの損傷を避けるため、各マスターボリュームを絞ってください。
- 本機の XLB コネクタは IEC 規格によって配線されていて、1番シールド・アース、2番ホット、3番コールドの接続型式です。
- 本機を設置する場合、湿気・結露・ほこりに充分注意して、安定した場所に設置してください。
また、発熱量の大きな機器やハム・ノイズの原因となる機器の近くでのご使用は避けてください。
- この取扱説明書をお読みになされた後は、保証書とともに大切に保管してください。

仕様

周波数特性	20Hz~20kHz	$0 \pm \frac{1}{3}$ dB (@600Ω、+4dB)
全高調波歪率	0.1%以下(20Hz~20kHz @600Ω、+4dB)	
ノイズレベル*		
入力換算ノイズ	-128dB(Rs=150Ω)	
残留ノイズ	-95dB	
GROUP OUT	-86dB	GROUP OUT Level Volume →nominal** All CH Assign Switches→off
	-64dB	GROUP OUT Level Volume →nominal** One Input Fader→nominal**
STEREO OUT	-76dB	STEREO Fader→maximum All GROUP Faders→minimum
	-64dB	STEREO Fader→maximum One Input Fader and One GROUP Fader→nominal**
FB OUT	-67dB	FB Master Level control→nominal** All Input FB Volumes→minimum
	-62dB	FB Master Level control→nominal** One Input FB Volume→nominal**
ECHO SEND	-67dB	ECHO Master Level control →nominal** All Input ECHO Volumes→minimum
	-62dB	ECHO Master Level control →nominal** One Input ECHO Volume→nominal**
最大電圧利得		
INPUT→GROUP OUT	76dB	
INPUT→STEREO OUT	76dB	
INPUT→FB OUT	76dB	
INPUT→ECHO SEND	82dB	
ECHO RTN→GROUP OUT	12dB	
TALKBACK INPUT→GROUP OUT	66dB	
GROUP SUB IN→GROUP OUT	6dB	
FB SUB IN→FB OUT	6dB	
ECHO SUB IN→ECHO SEND	6dB	

イコライザー特性

LOW-EQ	±15dB(100Hz シェルビング)
MID-EQ	±15dB(350Hz~5kHz ピーキング)
HIGH-EQ	±15dB(10kHz シェルビング)

クロストーク(1kHz)

MIX BUS間	-60dB以下
INPUT CH間	-60dB以下

VUメーター

MC1204、MC1604	GROUP 1 / FB 1、GROUP 2 / FB 2、 GROUP 3 / ECHO 1、GROUP 4 / ECHO 2、STEREO L・R
MC2404	GROUP 1~4、FB 1・2、ECHO 1・2、 STEREO L・R (0VU=+4dB 但し GROUP 1~4 は除く)

ピークインジケータ

INPUT(赤)	クリッピングの手前3dBで点灯
VU (赤)	0VUより8dB上で点灯

電源(使用電圧範囲) AC100V(±10%)、50/60Hz

消費電力 52W

寸法(W×H×D)

MC1204	762.5×185.5×654.3mm
MC1604	919×185.5×654.3mm
MC2404	1,232×185.5×654.3mm

重量

MC1204	22kg
MC1604	26kg
MC2404	34kg

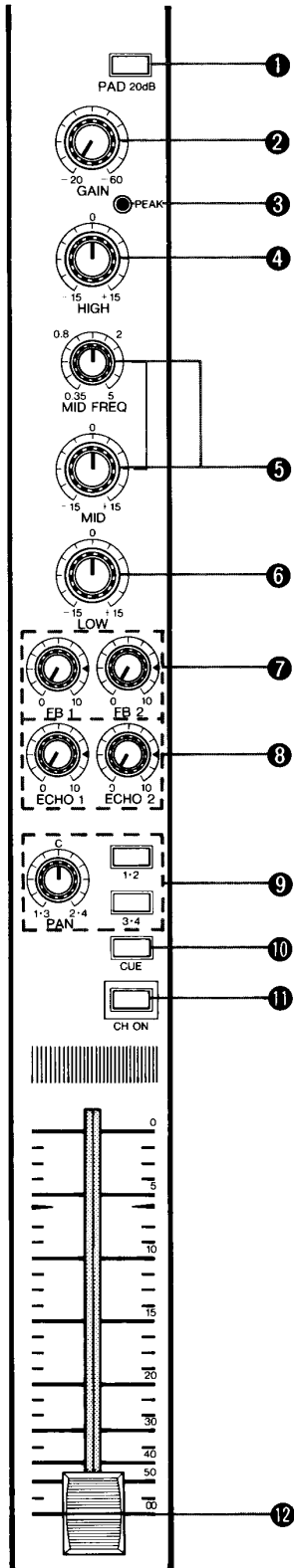
* @12.47kHz、-6dB/oct.のLPFで補正。

**nominal=最大より6dB手前。

● 0dB=0.775Vr.m.s.

●仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

INPUT



① PAD (INPUTアッテネーター)

減衰量20dBのパッドスイッチです。

INPUT 信号の入力レベルが高すぎて②の GAIN コントロールで減衰しきれない場合、スイッチをON “■” にします。

② GAIN コントロール

入力信号レベルに応じ、最適なレベルで入力できるように感度を調整します。

③の PEAK インジケーターが時々点灯し、⑫のチャンネルフェーダーが目盛6 “▶◀” 付近で使用できるように設定すると、S/N 比とダイナミックレンジのバランスがとれた良好な状態で使用できます。減衰不足の場合は、①の PAD スイッチをON “■” にします。

GAIN	INPUT SOURCE
-60 ~ -50	ローレベルマイクロホン (ダイナミック型)
-35	ハイレベルマイクロホン (コンデンサー型) / 電気・電子楽器
-20	ローレベルライン (一般オーディオ機器) / 電気・電子楽器

③ PEAK インジケーター

チャンネルフェーダー前のピークレベルを検出します。

クリッピングの手前3dBで赤色点灯し、クリッピングレベルに近づいたことを警告します。

④ HIGH イコライザー

高域の音質をコントロールします。

10kHz を基準周波数として最大15dBの範囲でブーストまたはカットすることができ、つまみ位置 “0” でフラットな特性となります。

⑤ MID FREQ コントロール / MID イコライザー

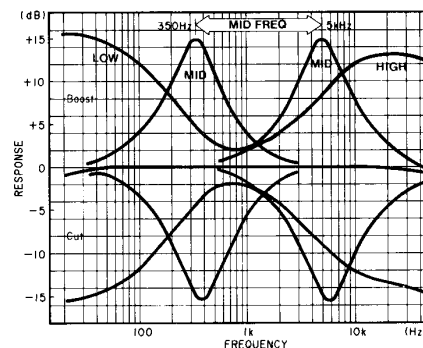
中域の音質をコントロールします。

MID FREQ コントロールで350Hz ~ 5kHz 内でイコライジングする中心周波数を決め、MID イコライザーでその周波数を最大15dBの範囲内でブースト、またはカットすることができます。MID イコライザー “0” でフラットな特性となります。

⑥ LOW イコライザー

低域の音質をコントロールします。

100Hz を基準周波数として最大15dBの範囲でブーストまたはカットすることができ、つまみ位置 “0” でフラットな特性となります。



⑦ FB 1・2 コントロール

フェーダー前の信号をレベルコントロールして、FB ミックスバスへ送り出します。

なお、本機ではイコライザーの手前から FB 信号を取り出すため、イコライジング前の音をホールドバックします。

ツマミ位置 8 “◀” で規定出力が得られます。

⑧ ECHO 1・2 コントロール

フェーダー後の信号をレベルコントロールして、ECHO ミックスバスへ送り出します。

ツマミ位置 8 “◀” で規定出力が得られます。

なお 2 系統のエコーラインは、2 台の異なるエコーマシンやフェイズシフター、ディレイマシン等のエフェクターを使用して、音源の種類や残響装置の種類による使いわけができます。

⑨ PAN(パンポット)/アサインスイッチ(1・2, 3・4)

各 INPUT 信号の音像を各 GROUP 1,2 および 3,4 間のどの位置に定位させるのかを決めます。

チャンネルフェーダーでレベル調整した INPUT 信号を、PAN で GROUP 1, 2 および 3, 4 に振り分け、アサインスイッチでミックスバスを指定 (ON “■”) して送り出します。

⑩ CUE スイッチ

スイッチを ON “■” にすることにより、フェーダー前の信号の状態をヘッドホンで確認できます。GROUP、FB などの出力には影響しません。

なお、CH ON スイッチの ON/OFF に関係なく使用できます。

⑪ CH ON スイッチ

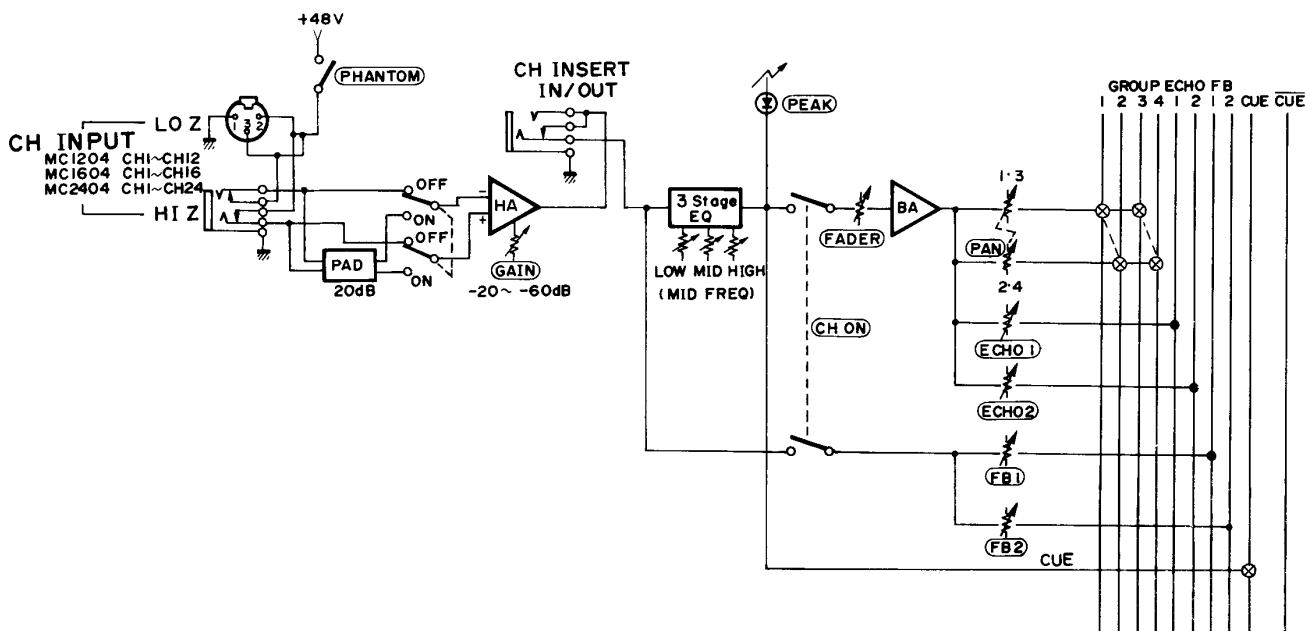
スイッチを ON “■” にすると、そのチャンネルが作動状態となります。

スイッチを OFF “■” にすると、信号はチャンネルフェーダーの前 (INSERT OUT 後) で遮断されるため、あらかじめセッティングしたレベルをくずすことなくミックスバスへの送出信号を完全にミュートすることができます。

⑫ チャンネルフェーダー

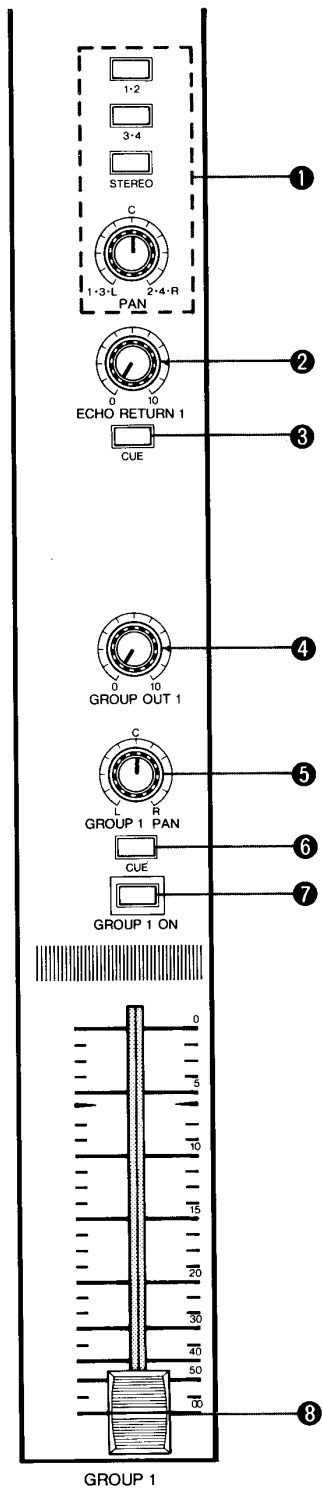
各チャンネル信号の送り出しレベルをコントロールします。

フェーダー位置 6 “▶◀” で規定出力が得られます。



ECHO RETURN & GROUP OUT SECTIONS

ECHO RETURN & GROUP OUT



① PAN (パンポット)/アサインスイッチ (1・2, 3・4, STEREO)

エコーリターン信号の音像を各GROUP間 (STEREO L、R間) のどの位置に定位させるのかを決めます。

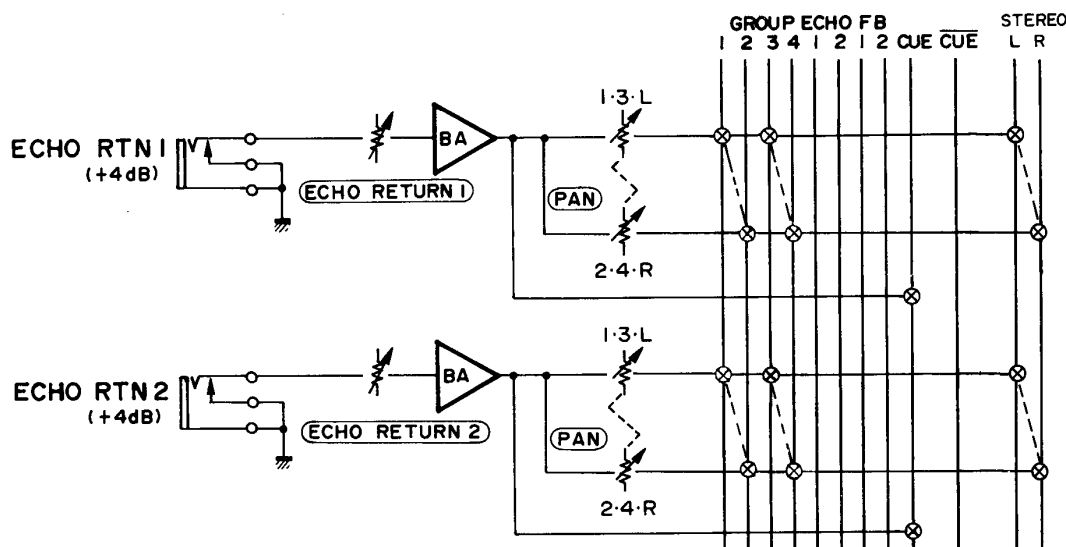
ECHO RETURN コントロールでレベル調整した信号を、PAN でGROUP の1、2 および3、4 (STEREO L、R) に振り分け、アサインスイッチでミックスバスを指定 (ON "■") して送り出します。

② ECHO RETURNコントロール

ECHO RETURN 端子に接続した機器の入力レベルを調整します。
ツマミ位置 8 "◀" で規定出力が得られます。

③ CUEスイッチ

スイッチをON "■" にすることにより、エコーリターン信号の入力状態をヘッドホンでモニターできます。



④ GROUP OUTコントロール

INPUT、ECHO RETURN、GROUP SUB IN の各部から送られ GROUP ミックスバスでミキシングされた GROUP 信号を、全体的にレベル調整して GROUP OUT 端子に送り出します。

ツマミ位置 8 "◀" で規定出力が得られます

⑤ GROUP PAN

各 GROUP 信号の音像を STEREO L、R間のどの位置に定位させるのかを決めるツマミです。GROUP マスターフェーダーでレベル調整した GROUP 信号を、このツマミで STEREO L、R に振り分け、STEREO ミックスバスへ送り出します。

⑥ CUEスイッチ

GROUP ON スwitchのON/OFF に関係なく、スイッチをON "■" にすることにより、GROUP 信号のミキシング状態をヘッドホンで確認できます。

なお、MASTER INSERT IN/OUT 端子に何らかの信号を入力した場合には、その信号をヘッドホンモニターします。

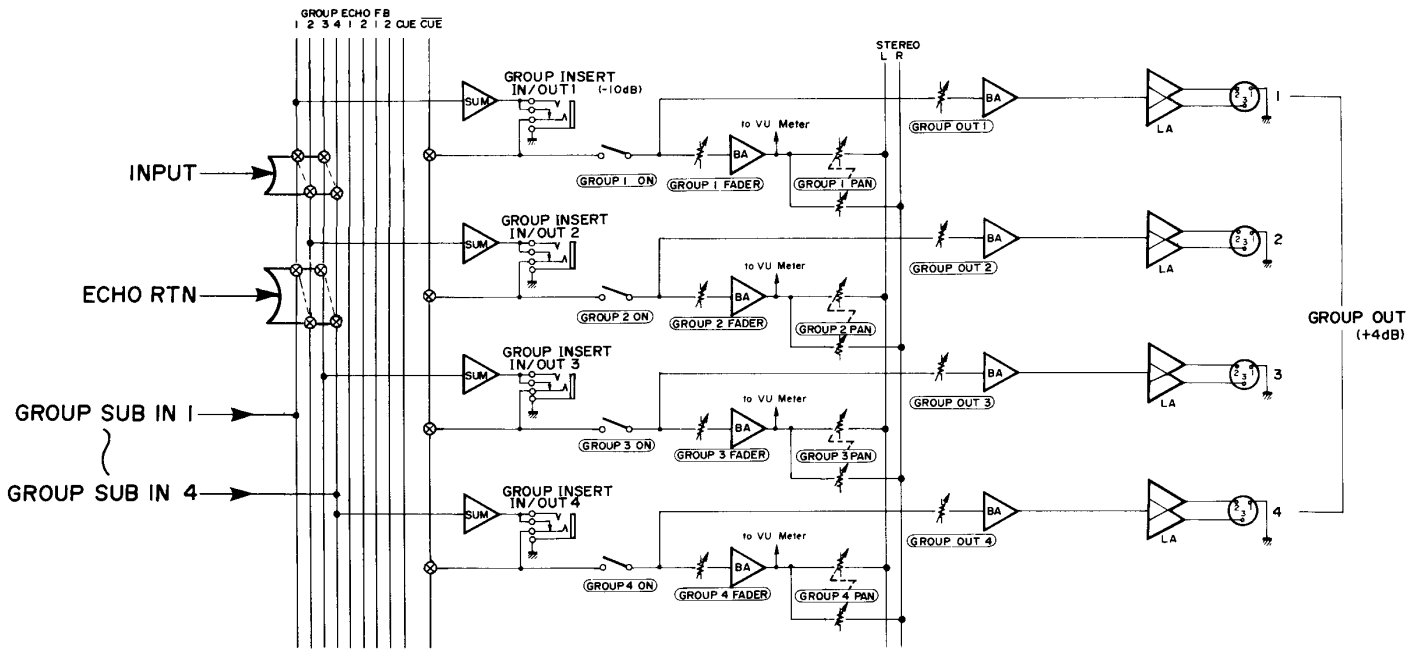
また、GROUP ON スwitchがOFF の状態でも使用できます。

7 GROUP ON

スイッチをON "■" にすると、そのグループチャンネルが作動状態となります。
 スイッチをOFF "□" にすると、信号はGROUPマスターフェダーおよびGROUP OUTコントロールの前で遮断されるため、あらかじめセッティングしたレベルをくずすことなく、STEREO ミックスバスおよびGROUP OUT端子への送出信号を完全にミュートすることができます。

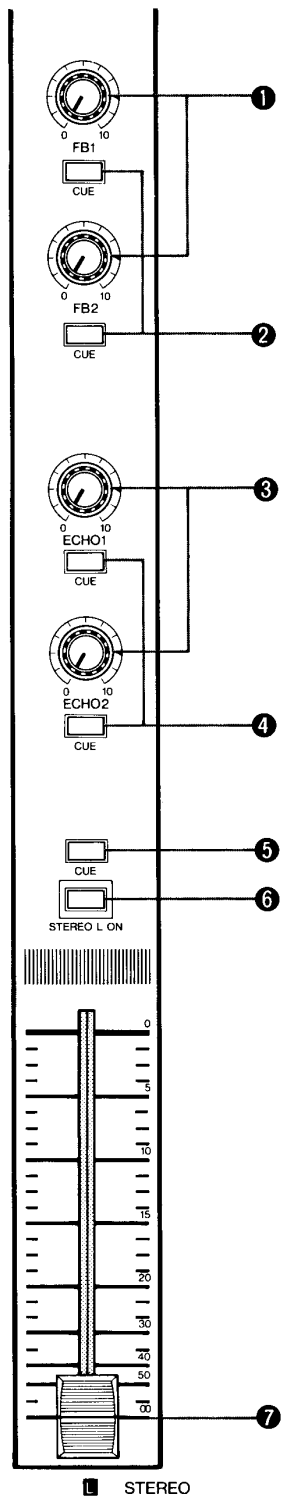
8 GROUP マスターフェダー

GROUP 信号を全体的にレベル調整し、STEREO ミックスバスへ送り出します。
 フェダー位置 6 "▶◀" で規定出力が得られ、VUメーターで出力レベルを監視することができます。



FB OUT, ECHO SEND & STEREO OUT SECTIONS

FB OUT, ECHO SEND & STEREO OUT



① FB マスターコントロール

INPUT、FB SUB INの各部から送られFBミックスバスでミキシングされたFB信号を、全体的にレベル調整してFB OUT 端子へ送り出します。

ツマミ位置 8 “◀” で規定出力が得られ、VUメーターで出力レベルを監視することができます。

② CUE スイッチ

スイッチをON “■” にすることにより、FB信号のミキシング状態をヘッドホンで確認できます。

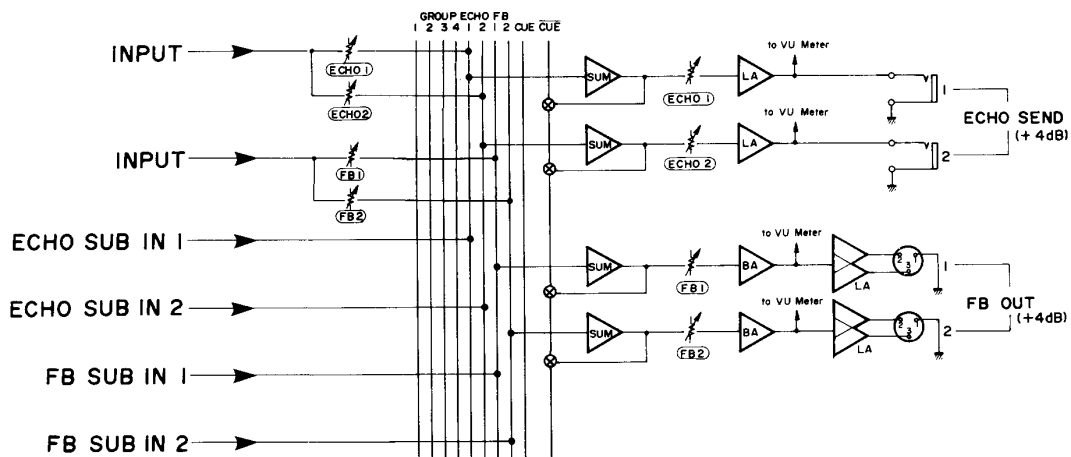
③ ECHO マスターコントロール

INPUT、ECHO SUB INの各部から送られ、ECHO ミックスバスでミキシングされたECHO 信号を、全体的にレベル調整してECHO SEND 端子へ送り出します。

ツマミ位置 8 “◀” で規定出力が得られ、VUメーターで出力レベルを監視することができます。

④ CUE スイッチ

スイッチをON “■” にすることにより、ECHO 信号のミキシング状態をヘッドホンで確認できます。



⑤ CUE (STEREO CUE) スイッチ

スイッチをON “■” にすることにより、STEREO 信号のミキシング状態をヘッドホンで確認できます。

なお、STEREO OUT 端子への出力には影響しません。

また、STEREO ON スイッチがOFF の状態でも使用できます。

注) 他の CUE はモノラルですが、この CUE はステレオで確認できます。

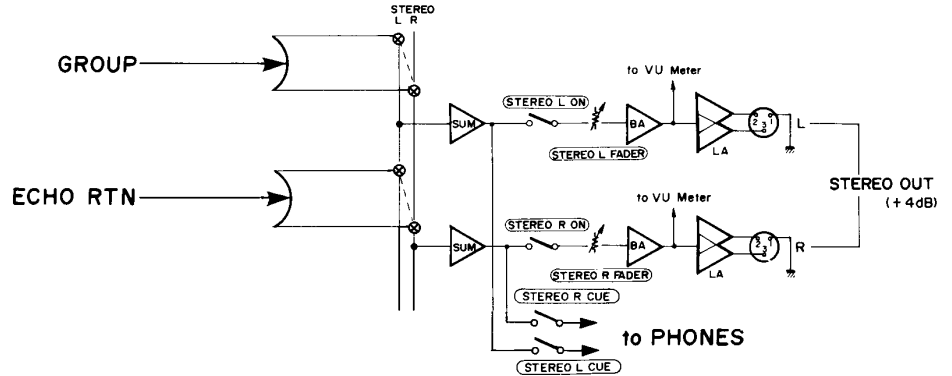
⑥ STEREO ON スイッチ

スイッチをON “■” にしたチャンネルが作動状態となります。

スイッチをOFF “■” にすると、信号はSTEREO マスターフェーダーの前で遮断されるため、あらかじめセッティングしたレベルをくずすことなく STEREO OUT 端子への送出信号を完全にミュートすることができます。

⑦ STEREO マスターフェダー

GROUP、ECHO RETURN の各部から送られ STEREO ミックスバスでミキシングされた STEREO 信号を、全体的にレベル調整して STEREO OUT 端子に送り出します。フェーダー位置 0 "———" で規定出力が得られ、VUメーターで出力レベルを監視することができます。



PHONES & TALK BACK SECTIONS

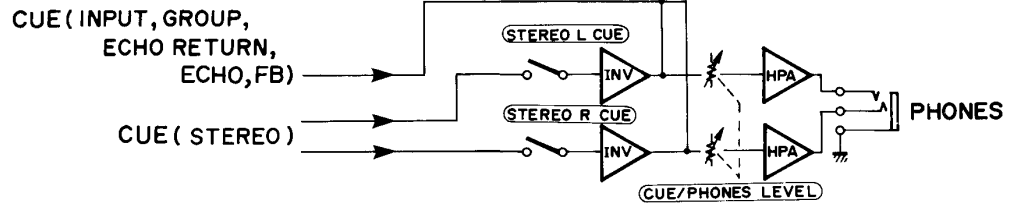
PHONES & TALK BACK

① PHONES

ステレオヘッドホンを接続します。
CUE 信号または STEREO OUT 信号をモニターできます。

② CUE/PHONES LEVELコントロール

ヘッドホンの音量レベルをコントロールします。
ツマミ位置 8 "◀" で規定出力が得られます。



③ アサインスイッチ (1, 2, 3, 4, FB, STEREO)

TALK BACK 信号の送出先 (ミックスバス) を指定します。

④ TALK BACK INPUT -50dB

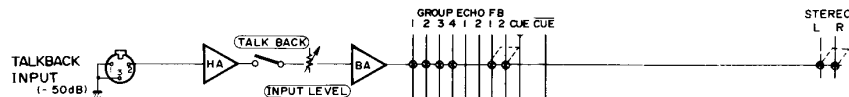
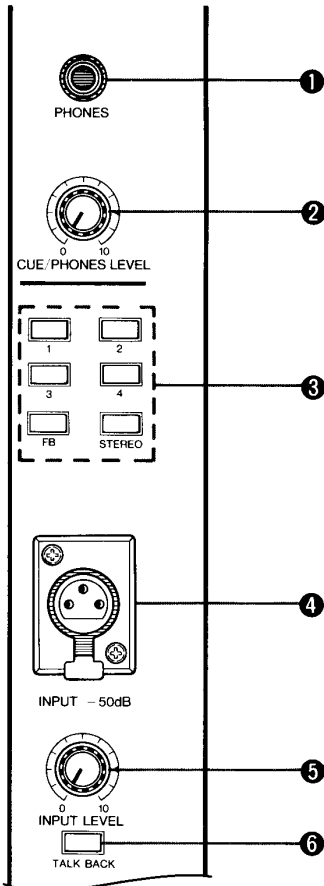
トークバック用のローインピーダンスマイクロホン接続します。
規定入力レベルおよび適合インピーダンスは、-50dB / 50 ~ 250Ω です。

⑤ INPUT LEVELコントロール

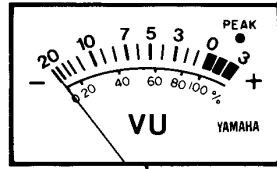
トークバック信号の入力レベルをコントロールします。
ツマミ位置 8 "◀" で規定出力が得られます。

⑥ TALK BACK スイッチ

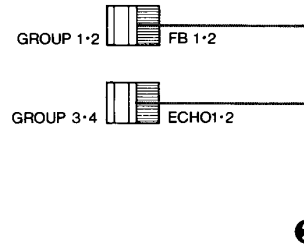
スイッチを ON "■" にすることにより、TALK BACK INPUT 端子に接続したマイクロホンで通話が可能です。



VU METER



①



②

① VUメーター

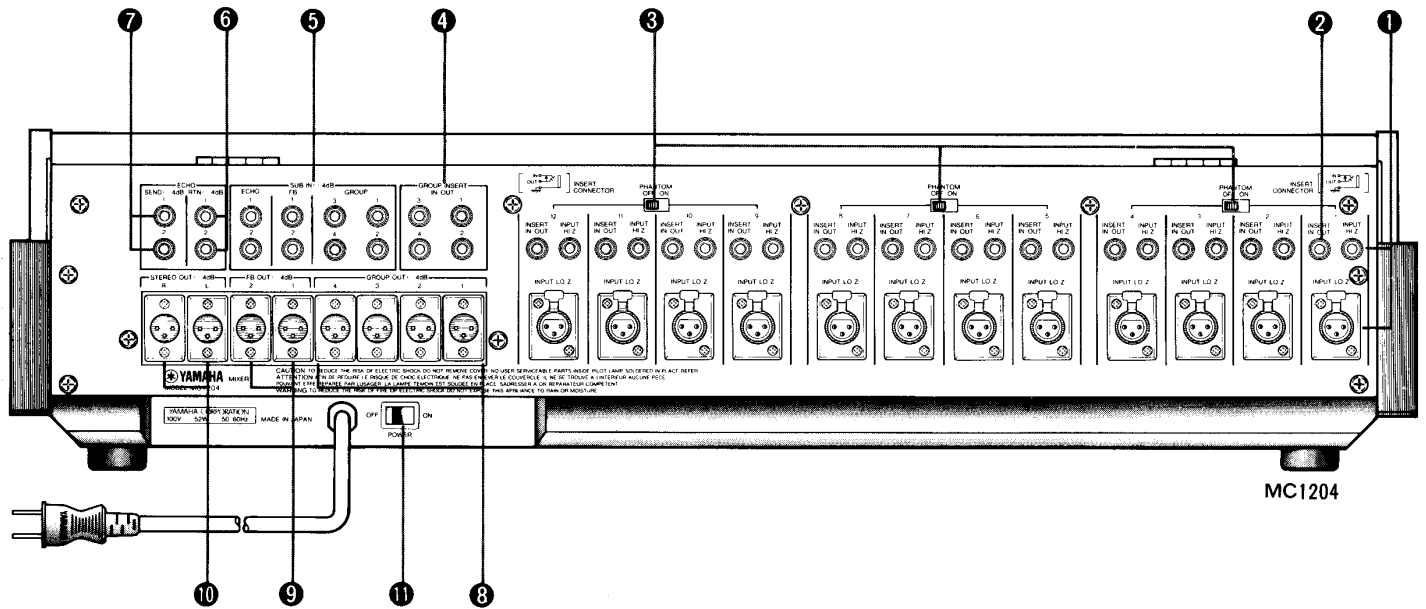
PEAK インジケーター内蔵の VU メーターです。
GROUP 1 ~ 4 のポストフェダーレベル、FB 1・2、ECHO 1・2、STEREO L・R の出力レベルを監視し、VU メーターの指示が 0VU の時、GROUP 1 ~ 4 以外の各出力には規定出力が得られます。
PEAK インジケーターは 0VU より 8 dB 上で点灯します。

VUメーター指示	-20 VU	-10 VU	-5 VU	0 VU	+3 VU
+4 dB出力レベル (123mV)	-16 dB (388mV)	-6 dB (691mV)	+4 dB (1.23V)	+7 dB (1.74V)	

② メーターファンクションスイッチ (MC1204、1604のみ)

GROUP/FB および GROUP/ECHO の VU メーターは兼用メーターになっています。
VU メーターの指示をこのスイッチで選択してください。

リアパネル



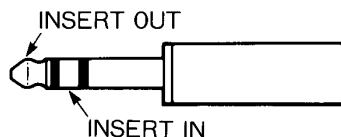
MC1204

① CH INPUT

各チャンネルの入力端子で、LO Z(ローインピーダンス)、HI Z(ハイインピーダンス)共に平衡(バランス)入力です。定格入力レベルは $-60\text{ dB} \sim 0\text{ dB}$ で、 $50 \sim 250\ \Omega$ のマイクロホンまたは $600\ \Omega$ のLINEに対応します。なお、本機内蔵のファントム電源により、外部電源仕様のコンデンサーマイクロホンを使用できます。

② CH INSERT IN/OUT $\cdot -10\text{ dB}$

INPUT部のヘッドアンプとイコライザーの間に設けられたアンバランス型入・出力端子です。入力端子として使用する場合、 $-10\text{ dB}/600\ \Omega$ LINEに対応し、出力端子として使用する場合、 $-10\text{ dB}/10\text{ k}\Omega$ の機器に対応します。あらゆる使用方法が可能な端子です。

**③ PHANTOM スイッチ**

ファントム電源を4チャンネルまとめてON/OFFするスイッチです。スイッチを“ON”にするとINPUTコネクター2・3番ピンにDC 48Vを供給します。使用しないときは、必ずOFF側にしておきます。なおHI Z端子には、ファントム電源は供給されません。※スイッチ“ON”の状態でもバランス型ダイナミックマイクロホンやLINEを接続してもさしつかえありませんが、アンバランス回路やトランスのセンターがアースされている回路などを接続しますと、ハムや故障の原因となります。

④ GROUP INSERT IN/OUT $\cdot -10\text{ dB}$

GROUPミックスバスとGROUPマスターフェーダーの間に設けられたアンバランス型入・出力端子です。入力端子として使用する場合、 $-10\text{ dB}/600\ \Omega$ LINEに対応し、出力端子として使用する場合、 $-10\text{ dB}/10\text{ k}\Omega$ の機器に対応します。あらゆる使用方法が可能な端子です。

⑤ SUB IN (GROUP、FB、ECHO) $\cdot +4\text{ dB}$

チャンネル増設用のサブミキサーの入力端子です。アンバランス型入力端子で、各SUB INの規定入力レベルおよび適合インピーダンスは $+4\text{ dB}/600\ \Omega$ です。

⑥ ECHO RETURN $\cdot +4\text{ dB}$

ディレイやリバーブマシンなどのエフェクターのリターン信号を受けるアンバランス型入力端子です。規定入力レベルおよび適合インピーダンスは $+4\text{ dB}/600\ \Omega$ です。

⑦ ECHO SEND $\cdot +4\text{ dB}$

ディレイやリバーブマシンなどのエフェクターへ信号を送り出します。アンバランス型出力端子で、規定出力レベルおよび適合インピーダンスは $+4\text{ dB}/600\ \Omega$ です。

⑧ GROUP OUT $\cdot +4\text{ dB}$

メインスピーカーを駆動するメインパワーアンプやレコーディング用のテープデッキを接続するバランス型出力端子です。規定出力レベルおよび適合インピーダンスは $+4\text{ dB}/600\ \Omega$ です。

⑨ FB OUT $\cdot +4\text{ dB}$

ホールバック用のモニター信号を出力します。モニタースピーカーを駆動するパワーアンプを接続してください。バランス型出力端子で、規定出力レベルおよび適合インピーダンスは $+4\text{ dB}/600\ \Omega$ です。

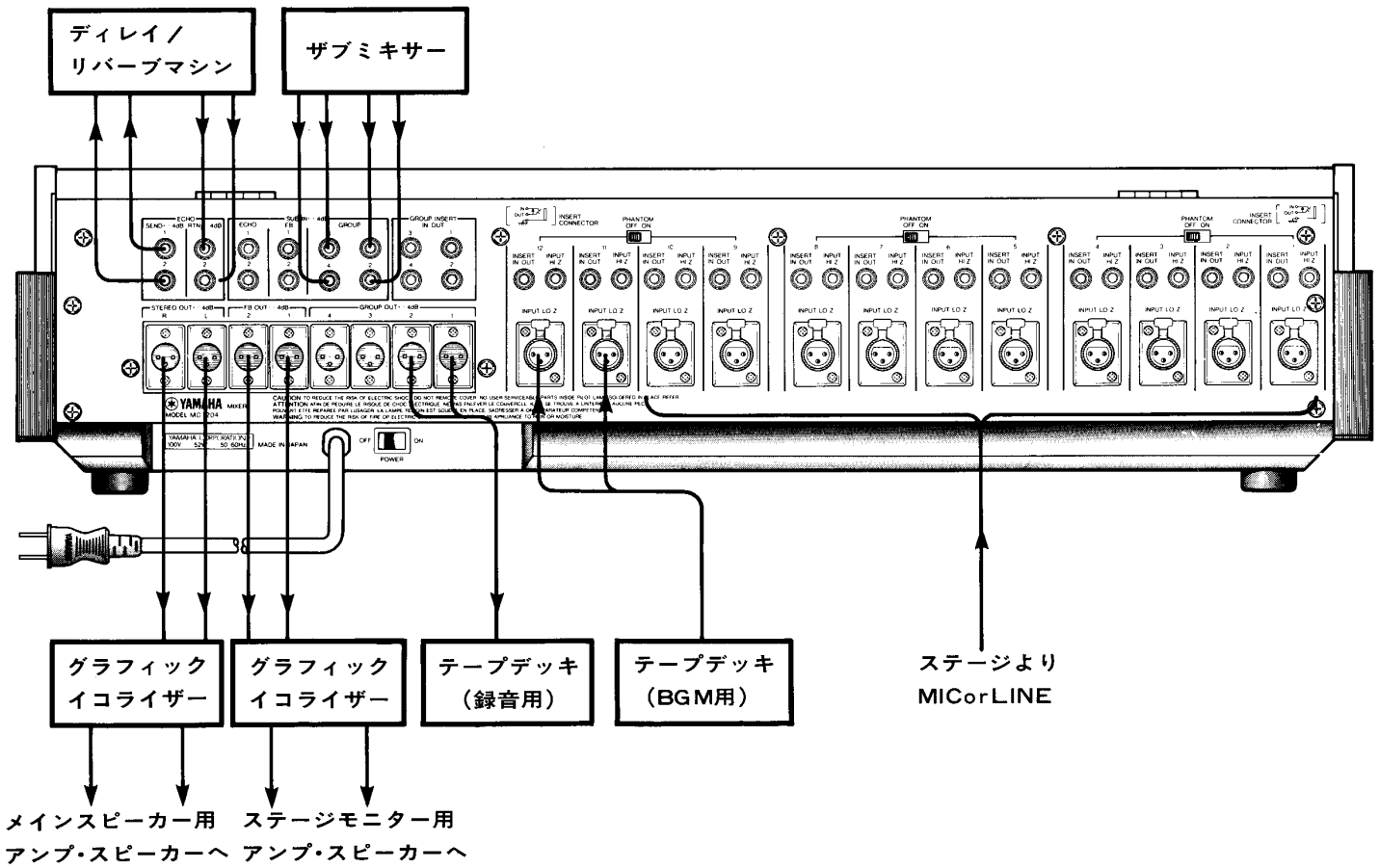
⑩ STEREO OUT $\cdot +4\text{ dB}$

メインスピーカーを駆動するメインパワーアンプやレコーディング用のステレオテープデッキを接続するバランス型出力端子です。規定出力レベルおよび適合インピーダンスは $+4\text{ dB}/600\ \Omega$ です。

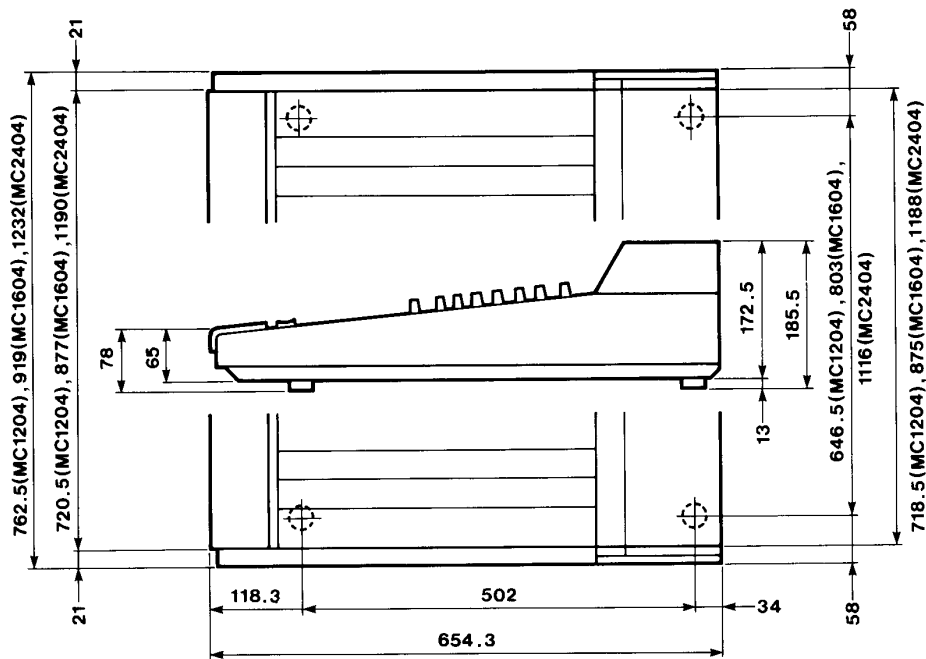
⑪ POWER スイッチ

“ON”にすると電源が入り、VUメーターの照明が点灯します。

接続例

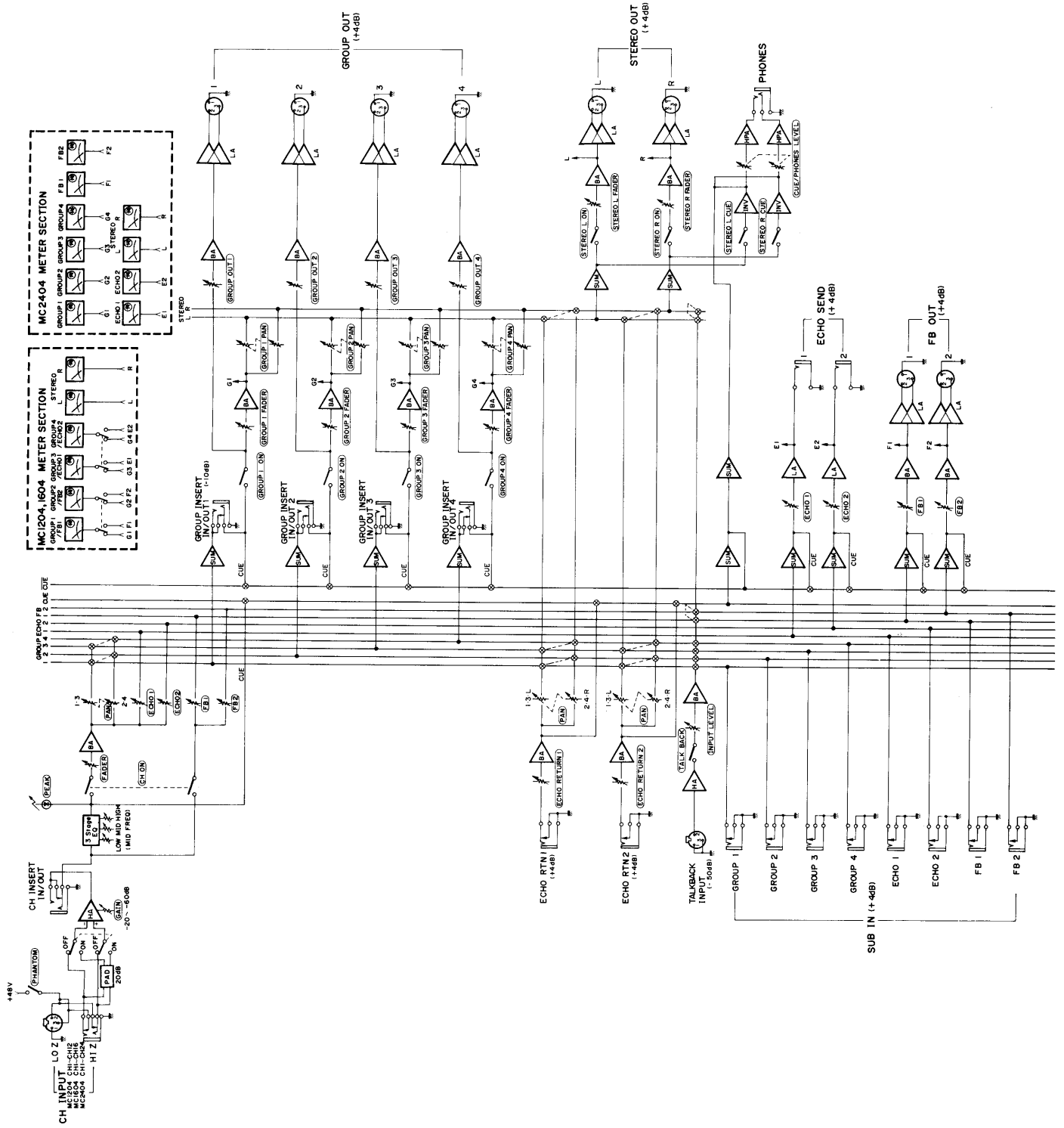


寸法図



単位: mm

ブロックダイアグラム



入・出力仕様

■入力仕様

入力端子	PAD	GAIN	入力インピーダンス	ソースインピーダンス	感度*	入力レベル		使用コネクター
						規定レベル	最大ノンクリップレベル	
CH INPUT (MC1204 1~12) (MC1604 1~16) (MC2404 1~24)	OFF(0dB)	-60dB	LO Z 4k Ω	50~250 Ω Microphones or 600 Ω Lines	-72dB (0.195mV)	-60dB (0.775mV)	-30dB (24.5mV)	XLB-3-31 (Balanced)
		-20dB	HI Z 10k Ω		-32dB (19.5mV)	-20dB (77.5mV)	+10dB (2.45V)	
	ON(20dB)					-12dB (195mV)	0dB (775mV)	+20dB (7.75V)
CH INSERT IN (MC1204 1~12) (MC1604 1~16) (MC2404 1~24)			10k Ω	600 Ω Lines	-22dB (61.6mV)	-10dB (245mV)	+20dB (7.75V)	Phone Jack(TRS) (Unbalanced)
GROUP INSERT IN (1~4)			5k Ω	600 Ω Lines	-16dB (123mV)	-10dB (245mV)	+20dB (7.75V)	Phone Jack(TRS) (Unbalanced)
ECHO RETURN (1, 2)			10k Ω	600 Ω Lines	-8dB (309mV)	+4dB (1.23V)	+20dB (7.75V)	Phone Jack (Unbalanced)
SUB IN (GROUP 1~4) (FB 1, 2, ECHO 1, 2)			10k Ω	600 Ω Lines	-2dB (616mV)	+4dB (1.23V)	+20dB (7.75V)	Phone Jack (Unbalanced)
TALKBACK INPUT			10k Ω	50~250 Ω Microphones	-62dB (0.616mV)	-50dB (2.45mV)	-10dB (245mV)	XLB-3-31 (Unbalanced)

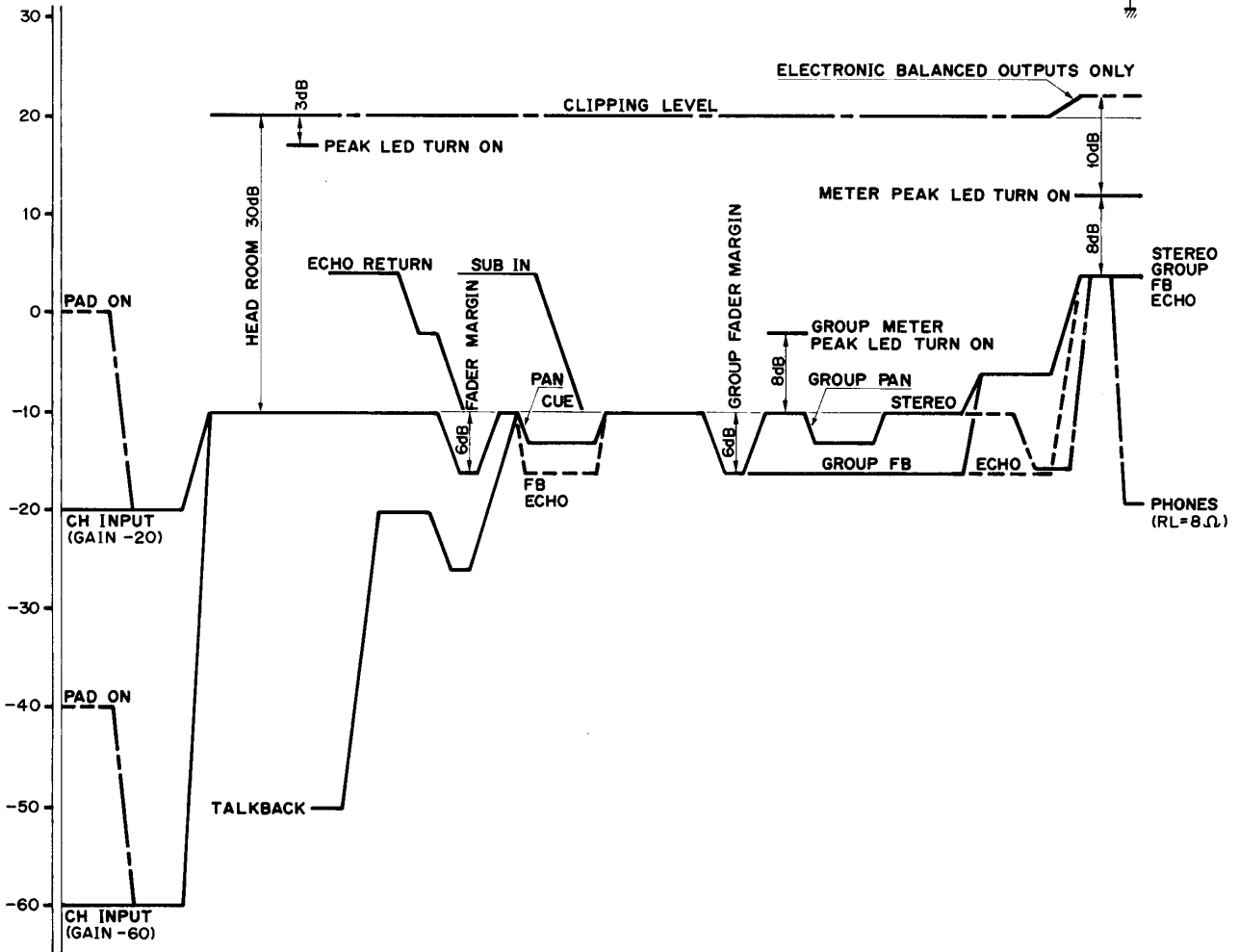
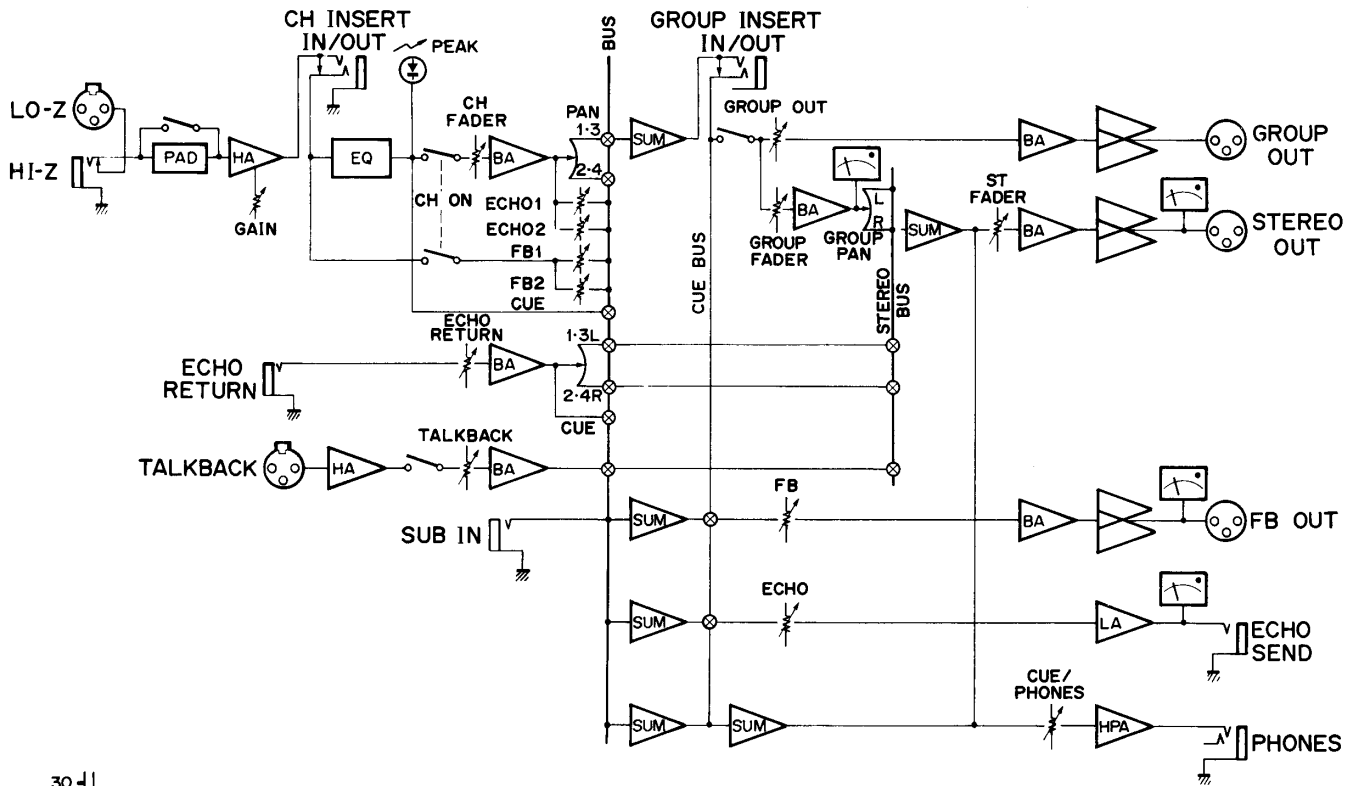
■出力仕様

出力端子	出力インピーダンス	負荷インピーダンス	出力レベル		使用コネクター
			規定レベル	最大ノンクリップレベル	
GROUP OUT (1~4)	150 Ω	600 Ω Lines	+4dB(1.23V)	+22dB(9.76V)	XLB-3-32 (Balanced)
STEREO OUT (L, R)	150 Ω	600 Ω Lines	+4dB(1.23V)	+22dB(9.76V)	XLB-3-32 (Balanced)
FB OUT (1, 2)	150 Ω	600 Ω Lines	+4dB(1.23V)	+22dB(9.76V)	XLB-3-32 (Balanced)
ECHO SEND (1, 2)	150 Ω	600 Ω Lines	+4dB(1.23V)	+18dB(6.16V)	Phone Jack (Unbalanced)
CH INSERT OUT (MC1204 1~12) (MC1604 1~16) (MC2404 1~24)	100 Ω	10k Ω Lines	-10dB(245mV)	+20dB(7.75V)	Phone Jack(TRS) (Unbalanced)
GROUP INSERT OUT (1~4)	600 Ω	10k Ω Lines	-10dB(245mV)	+20dB(7.75V)	Phone Jack(TRS) (Unbalanced)
PHONES	100 Ω	8 Ω Phones	1mW	20mW	Stereo Phone Jack (Unbalanced)
		40 Ω Phones	3mW	130mW	

* 規定出力レベル(+4dB)を得るために必要な入力レベルを示す。

● 0dB=0.775Vr.m.s.

レベルダイアグラム



サービスについて

本機の保証期間は、保証書によりご購入から1ヶ年で
す。(現金、ローン、月賦などによる区別はございませ
ん。)また保証は日本国内にてのみ有効といたします。

●保証書

保証書をお受け取りのときは、お客さまのご住所、お
名前、お買い上げ月日、販売店名などを必ずご確認ください。
無記名の場合は無効になりますので、くれぐ
れもご注意ください。

●保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客さまに
ご購入の日から向う1か年間の無償サービスをお約束
申しあげるものですが、万一紛失なさいますと保証期
間中であっても実費を頂戴させていただくことになり
ます。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけ
ますように充分ご配慮のうえで保管してください。また、
保証期間が切れましてもお捨てにならないでくだ
さい。後々のサービスに際しての機種判別や、サー
ビス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

●保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買上げ店に
ご連絡頂きますと、技術者が修理・調整致します。こ
の際必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合に
はサービス料金を頂戴する場合もあります。又お買上げ
店より遠方に移転される場合は、事前にお買上げ店あ
るいは電音サービス拠点にご連絡ください。移転先
におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、
引続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよ
う手続き致します。

満1か年の保証期間を過ぎますとサービスは有料とな
りますが、引き続き責任をもってサービスをさせてい
ただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は最低
8年となっています。(性能部品とは、その製品の機能
を維持するために必要な部品のことです。)
そのほかご不明の点などございましたら、下記のヤマ
ハサービス網までお問い合わせください。

ヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点

(修理受付および修理品お預り窓口)

北海道サービスセンター	〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL(011)513-5036
仙台サービスセンター	〒983 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL(022)236-0249
新潟サービスセンター	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL(025)243-4321
松本サービスステーション	〒390 松本市大手2-5-2 中村屋ビル3F TEL(0263)32-5930
東京サービスセンター	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 麿名館ビル TEL(03)265-2241
首都圏サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL(044)434-3100
浜松サービスセンター	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL(0534)65-1158
名古屋サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230
京都サービスセンター	〒600 京都市下京区七条通南之町東入材木町483 第2マスイビル3F TEL(075)361-6470
大阪サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL(06)877-5262
神戸サービスセンター	〒650 神戸市中央区元町2-7-3 ヤマハ(株)神戸店内 TEL(078)321-1195
四国サービスセンター	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内 TEL(0878)22-3045
広島サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2-27-39 TEL(082)874-3787
九州サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2134

(本社)

電音サービス部 〒435 浜松市上西町911
TEL(0534)65-1158

ヤマハ株式会社 AV機器事業部音響事業推進部

音響事業推進部	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL(0534)60-2493
東京事業所	〒104 東京都中央区銀座7-11-3 矢島ビル TEL(03)574-8592
大阪営業所	〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館 TEL(06)252-5231
名古屋営業所	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL(052)201-5199
九州営業所	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2130

ヤマハ株式会社 楽器営業本部

LM営業部	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL(0534)60-2431
北海道支店 LM営業部	〒064 札幌市中央区南十条西1-1 ヤマハセンター内 TEL(011)512-6113
仙台支店 LM営業部	〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 TEL(022)222-6146
東京支店 LM営業部	〒104 東京都中央区銀座7-11-3 矢島ビル TEL(03)574-8592
名古屋支店 LM営業部	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL(052)201-5199
大阪支店 LM営業部	〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館 TEL(06)252-5231
広島支店 LM営業部	〒730 広島市中区紙屋町1-1-18 ヤマハビル TEL(082)244-3749
九州支店 LM営業部	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2130

*名称、住所及び電話番号は変更になる場合があります。